

# Reach-Out User's Manual

キュレーション・サポートツール

シーベライズ株式会社

## 内容

はじめに.....	3
概要.....	3
動作環境.....	3
第1章 プログラムの起動と設定.....	4
1.1 自動認証.....	4
1.2 初期画面.....	4
1.3 環境設定.....	5
1.4 認証情報設定.....	6
1.4.1 認証手順その1.....	6
1.4.2 認証手順その2.....	8
1.4.3 認証手順その3 (ライセンスの更新).....	9
1.5 オンラインマニュアル.....	9
第2章 テーマの追加と削除.....	10
2.1 テーマの追加.....	10
2.2 テーマの削除.....	11
第3章 テーマの表示.....	12
3.1 テーマの選択.....	12
3.2 テーマのツリー表示.....	12
3.3 ツリー構造.....	13
3.3.1 ノードの登録.....	13
3.3.2 ツリー表示の原則.....	13
3.3.3 ツリー構造での機能.....	14
3.3.4 ツリーのドラッグ&ドロップ機能.....	15
3.3.5 ドラッグ&ドロップ機能の原則.....	16
3.3.6 セクションの機能.....	17
第4章 ブラウザ・ナビゲーション.....	18
4.1 ブラウザ制御.....	18
4.2 ナビゲーション・ペイン.....	18
4.2.1 前画面へ戻る.....	18
4.2.2 次画面へ進む.....	18
4.2.3 検索エンジン起動.....	18
4.2.4 ナビゲート.....	19
4.2.5 DB 登録.....	19
4.2.6 コピーアドレス(URL).....	19
4.2.7 コピータイトル.....	19
4.2.8 スクリプト制御.....	19
4.2.9 エディタ起動.....	20
4.2.10 ローカルファイルのドラッグ&ドロップ.....	20
第5章 テキストエディタ.....	21
5.1 内蔵テキストエディタ概要.....	21
5.2 カットバッファ.....	21
5.2.1 フィルター・プルダウンリスト.....	21
5.2.2 カットバッファの機能ボタン.....	22
5.2.3 テキスト編集パネルの表示と選択.....	22
5.3 テキストエディタ.....	23

## はじめに

### 概要

"Reach-Out"（リーチアウト）は、インターネットを使用した情報収集・ドキュメント作成ジョブを支援するキューレーションサポート用 PC アプリケーションプログラムです。

### 動作環境

本ソフトウェアの動作可能な環境は以下の通りです。

OS:	Windows 10（Windows 7 以降で動作可能ですが保証外です）
モニタ:	SXGA(1280x1024)以上
メモリー:	2GB 以上を推奨
ネットワーク:	TCP/IP 接続
ブラウザ:	Internet Explorer 11.0（内蔵ブラウザで使用）

# 第1章 プログラムの起動と設定

## 1.1 自動認証

プログラム起動時には自動認証が行われます。その結果により、機能レベルが決定されます。

- 1) 機能レベル0（デモ版）  
テーマの新規登録は1個のみ可能です。使用可能期間の制限はありません。
- 2) 機能レベル1（試用版）  
無料で使用できるバージョンです。テーマの新規登録は5個まで可能です。  
使用可能期間は機能レベル1が認証された時から2週間に制限されます。  
その期間を過ぎると機能レベル0に戻ります。
- 3) 機能レベル2（標準版）  
有料の期間ライセンスバージョンです。テーマの新規登録の個数制限はありません。  
プロ版機能は使用できません。使用可能期間はライセンスの有効期限までです。  
その期間を過ぎると機能レベル0に戻ります。
- 4) 機能レベル3（プロ版）  
有料の期間ライセンスバージョンです。テーマの新規登録の個数制限はありません。  
全ての機能が使用できます。使用可能期間はライセンスの有効期限までです。  
その期間を過ぎると機能レベル0に戻ります。

## 1.2 初期画面

起動が完了すると認証結果が表示されます。



Figure 1.2 認証結果表示画面

認証結果表示を閉じると初期画面になります。初期画面では、製品サイトが表示されます。

## 1.3 環境設定

[設定]メニューから[環境設定]を選択すると環境設定画面が開きます。

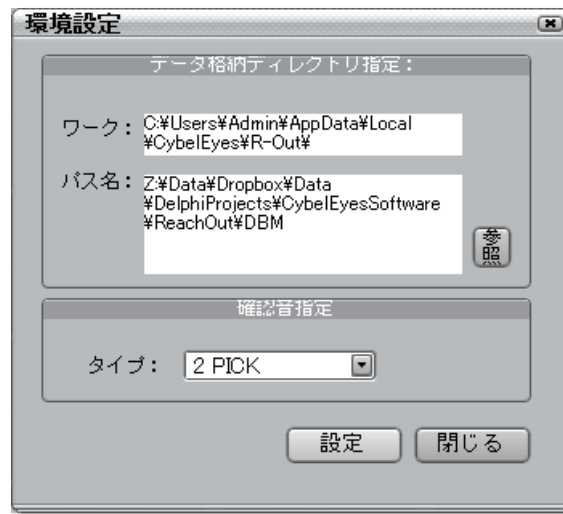


Figure 1.3.1 環境設定画面

- 1) **ワーク**はプログラムに割り当てられた作業領域を表し、変更できません。
- 2) **パス名**はデータが保存されるディレクトリを表しており、書き込み可能なパスに変更することができます。[参照]ボタンを押すとパスを選択できます。(機能レベル2以上で利用可能)
- 3) **確認音指定**は作業時の確認音を指定するものです。プルダウンしてタイプを選択します。

[設定]ボタンを押すとデータを保存します。

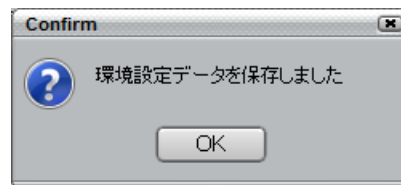


Figure 1.3.2 環境設定・確認画面

パス名を変更した場合はプログラムの再起動が必要になります。

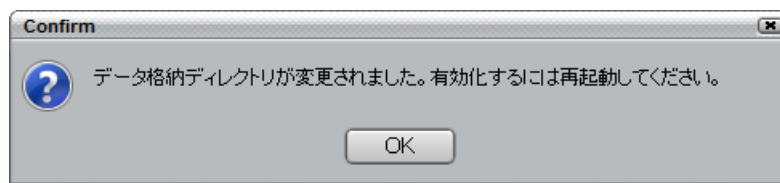


Figure 1.3.3 環境設定・再起動確認画面

## 1.4 認証情報設定

[設定]メニューから[認証情報設定]を選択すると認証情報設定画面が開きます

Figure 1.4 認証情報設定画面

- 1) マシンID は端末に割り当てられた物理アドレスを表し、変更できません。
- 2) シリアル番号はライセンスに対応した14桁の数字です。

### 1.4.1 認証手順その1

プログラムをインストール直後の初期状態では、認証情報設定画面は以下のようになります。

Figure 1.4.1.1 認証情報設定画面

この画面で[認証]ボタンを押すと以下の画面が表示され、シリアル番号の送り先電子メールアドレスの入力が求められます。

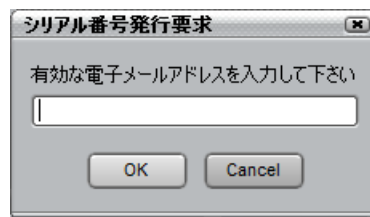


Figure 1.4.1.2 シリアル番号発行要求画面

電子メールアドレスを入力後、[OK]ボタンを押すと以下の確認画面が表示されます。

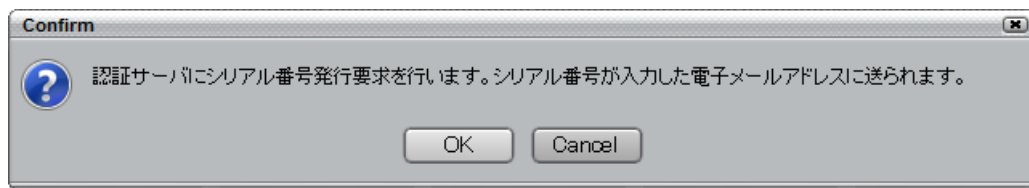


Figure 1.4.1.3 シリアル番号発行確認画面

この画面で[OK]ボタンを押すと認証サーバにデータが送られ、完了すると以下の確認画面が表示されます。

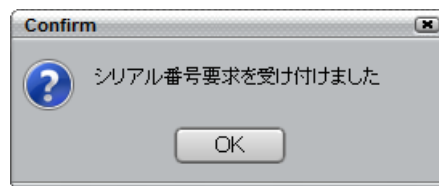
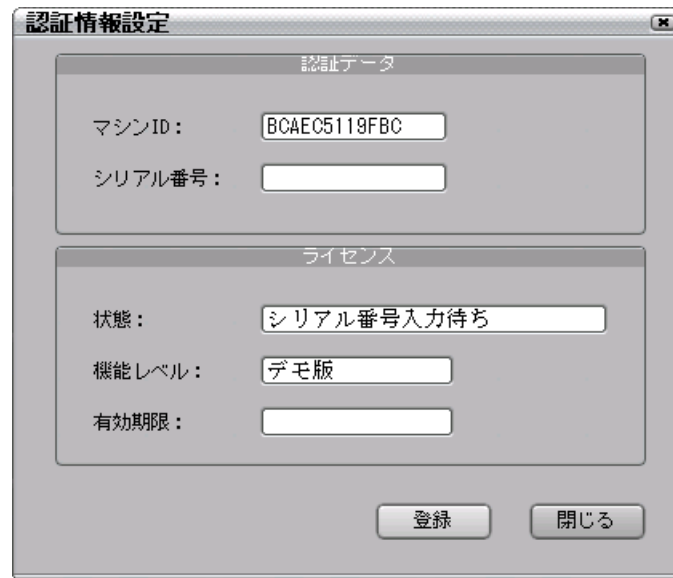


Figure 1.4.1.4 シリアル番号要求受付画面

この段階でシーベライズ株式会社([webmaster@cybeleyes.co.jp](mailto:webmaster@cybeleyes.co.jp))から「ライセンス通知」という題名で、製品名とシリアル番号が記された電子メールが送られます。

## 1.4.2 認証手順その2

シリアル番号発行要求が完了した段階では、認証情報設定画面は以下のように表示されます。



The screenshot shows a window titled "認証情報設定" (Authentication Information Setting). It contains two main sections: "認証データ" (Authentication Data) and "ライセンス" (License). In the "認証データ" section, "マシンID:" is set to "BCAEC5119FBC" and "シリアル番号:" is an empty text box. In the "ライセンス" section, "状態:" is "シリアル番号入力待ち" (Waiting for serial number input), "機能レベル:" is "デモ版" (Demo version), and "有効期限:" is an empty text box. At the bottom right, there are two buttons: "登録" (Register) and "開じる" (Open).

Figure 1.4.2.1 認証情報設定画面

ここで送られてきたシリアル番号を入力し、[登録]ボタンを押します。

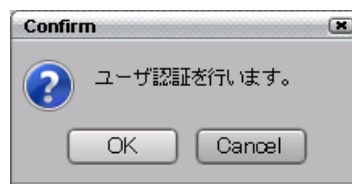


Figure 1.4.2.2 ユーザ認証確認画面

確認画面が表示されるので[OK]ボタンを押します。  
**機能レベル1 (試用版)** が認証され、以下の確認画面が表示されます。

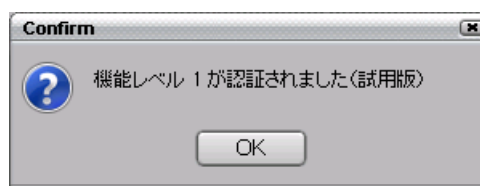


Figure 1.4.2.3 認証レベル確認画面

[OK]ボタンで確認画面を閉じます。



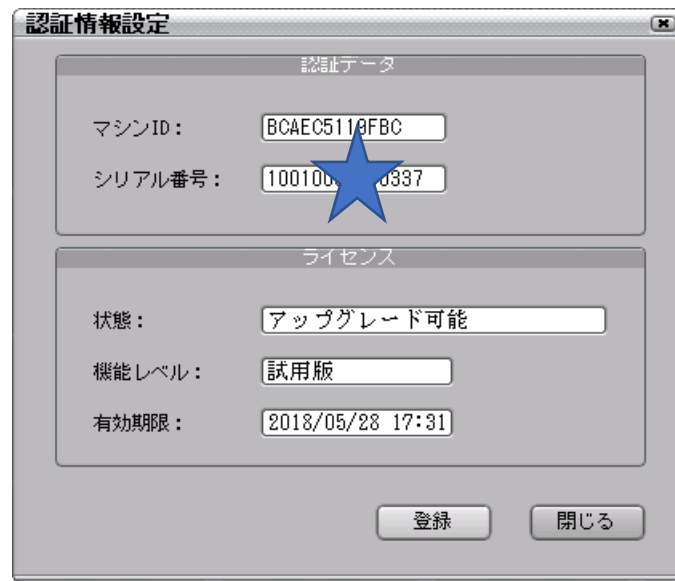


Figure 1.4.2.4 認証情報設定画面

この段階では、機能レベルが試用版であり、アップグレード可能であることとライセンスの有効期限が表示されます。**有効期間はシリアル番号発行要求を行った時点から14日間です。**

### 1.4.3 認証手順その3（ライセンスの更新）

新しいライセンスのシリアル番号を入手した場合も、同様にシリアル番号欄を新しいシリアル番号に更新し、[登録]ボタンを押すことで新しいライセンスが適用されます。

## 1.5 オンラインマニュアル

[ヘルプ]メニューから[マニュアル]を選択すると**オンラインマニュアル**が内蔵ブラウザに表示されます。



Figure 1.5 オンラインマニュアル画面

## 第2章 テーマの追加と削除

### 2.1 テーマの追加

作業の最初に行うことが「テーマの追加」です。  
左側のテーマペインの上部にはプルダウンリストと[テーマ追加]ボタン及び[テーマ削除]ボタンが配置されています。



Figure 2.1.1 テーマペイン

[テーマ追加]ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。



Figure 2.1.2 テーマ名入力画面

テーマ名は、テーマを識別する文字列で半角換算 127 文字まで登録できます。  
テーマ名を入力して[OK]ボタンを押します。



Figure 2.1.3 キーワード入力画面

キーワードを入力するダイアログが表示されます。  
キーワードは検索に使用される文字列で半角換算 63 文字まで登録できます。  
ここで入力したキーワードはそのまま検索エンジンへの入力文字列となります。  
キーワードを入力して[OK]ボタンを押します。

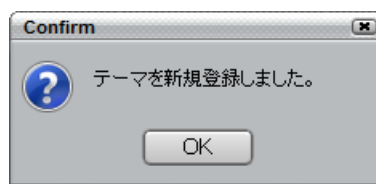


Figure 2.1.4 テーマ新規登録確認画面

[OK]ボタンを押すと新規登録されたテーマの初期画面が内蔵ブラウザに表示されます。。



Figure 2.1.5 内蔵ブラウザ表示画面

## 2.2 テーマの削除

選択中のテーマを削除することができます。  
[テーマ削除]ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。

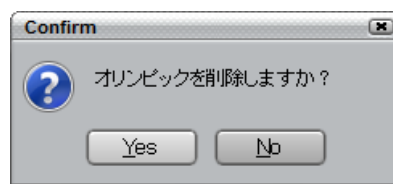


Figure 2.2.1 テーマ削除確認画面

削除すべきテーマ名を確認して[Yes]ボタンを押します。

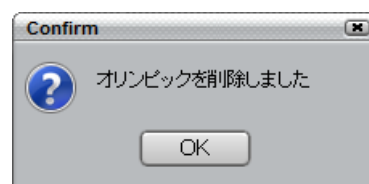


Figure 2.2.2 テーマ削除画面

## 第3章 テーマの表示

### 3.1 テーマの選択

左側のテーマペインの上部のプルダウンリストの[▼]ボタンを押すと登録されているテーマのリストが表示されます。



Figure 3.1 テーマ・プルダウンリスト

マウスで表示したいテーマを選択し、クリックするとそのテーマが表示されます。

### 3.2 テーマのツリー表示

テーマを選択すると、選択したテーマのキーワードがツリー領域の先頭に表示され、ブラウザにはそのキーワードで検索された結果が表示されます。

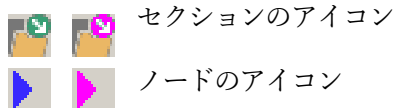
この先頭に表示されているキーワードは「**ルートセクション**」と呼ばれ、全ての**ツリー**構造の原点になります。



Figure 3.2 ツリー表示

### 3.3 ツリー構造

テーマは、ルートセクションを原点とするツリー構造で表示されます。  
ツリー構造の要素には**セクション**と**ノード**があります。  
ファイルシステムと比較すると、セクションはフォルダ、ノードはファイルに対応します。



セクションのアイコン

ノードのアイコン

#### 3.3.1 ノードの登録

- 1) 内蔵ブラウザで表示中のページの情報をツリー上にノードとして登録することができます。  
登録方法は、第4章 4.2.5 項を参照して下さい。
- 2) ノードのアイコンの横には、内蔵ブラウザが取得したページのタイトルが表示されます。
- 3) ツリー上のノードをクリックすると登録されたページが内蔵ブラウザに表示されます。  
以下の画面はブラウザ・ペインの検索結果画面でリンクをクリックして移動し、ツリーにノードを追加した後の画面です。

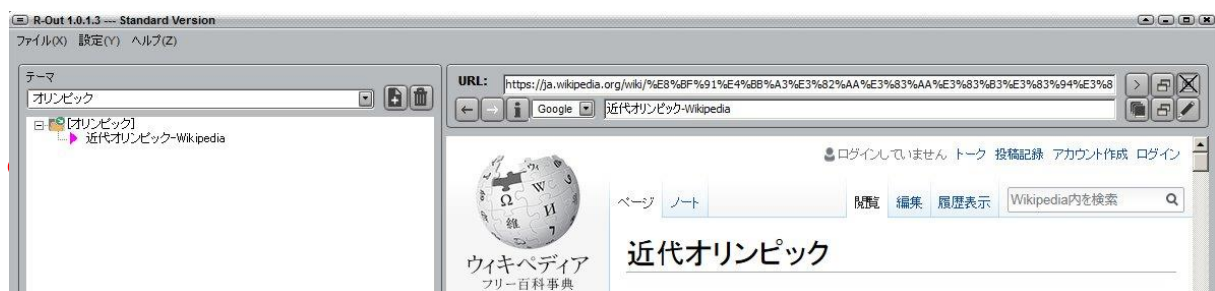


Figure 3.3.1 ノードの登録

#### 3.3.2 ツリー表示の原則

ツリー構造は以下の原則に従って表示されます。







- 1) ルートセクション以外の要素は他のセクションの下位に表示されます。
- 2) セクションにはアイコンの横にキーワードが表示されます。
- 3) セクションは自セクションの下位の要素のコンテナとして動作します。セクションが移動する場合はその下位の要素も同時に移動されます。
- 4) ツリー表示では最後に選択された要素（**カレント要素**）が赤色表示されます。
- 5) 様々なテーマペインでの機能は原則としてカレント要素に対して行われます。
- 6) ノードの追加は、カレント要素がセクションであればその下位の末尾に、ノードであればその所属するセクションの下位の末尾に対して行われます。
- 7) ノードを左クリックするとそのノードが選択され、その内容がブラウザ表示されます。
- 8) セクションを左クリックするとそのセクションが選択されますが、ブラウザ表示は変わりません。
- 9) セクションを左ダブルクリックするとそのセクションが選択され、検索エンジンでそのキーワードを検索した結果がブラウザ表示されます。
- 10) セクションのキーワード検索時には上位のセクションのキーワードも併記して検索されます。

### 3.3.3 ツリー構造での機能

テーマペイン内のツリー構造内でマウスの右クリックを行うと実行可能な機能がプルダウンメニューとして表示されます。



Figure 3.3.3 ツリーのプルダウンメニュー

- |   |         |  |
|---|---------|--|
|  | 上へ移動    | カレント要素を1階層上へ移動します  |
|  | セクション追加 | カレント要素がセクションの場合はその下位に、そうでない場合はカレント要素の属するセクションの下位に新たなセクションを追加します。 |
|  | 全展開     | ツリーを全展開します   |
|  | 全折り畳み   | ツリーを全て折り畳みます   |
|  | キーワード変更 | カレント要素がセクションの場合、キーワードを変更します                                      |
|  | 削除      | カレント要素を削除します<br>セクションの場合は下位のノードも削除されます                           |

### 3.3.4 ツリーのドラッグ&ドロップ機能

ツリー構造内で要素をドラッグ&ドロップすることで位置を変更することができます。

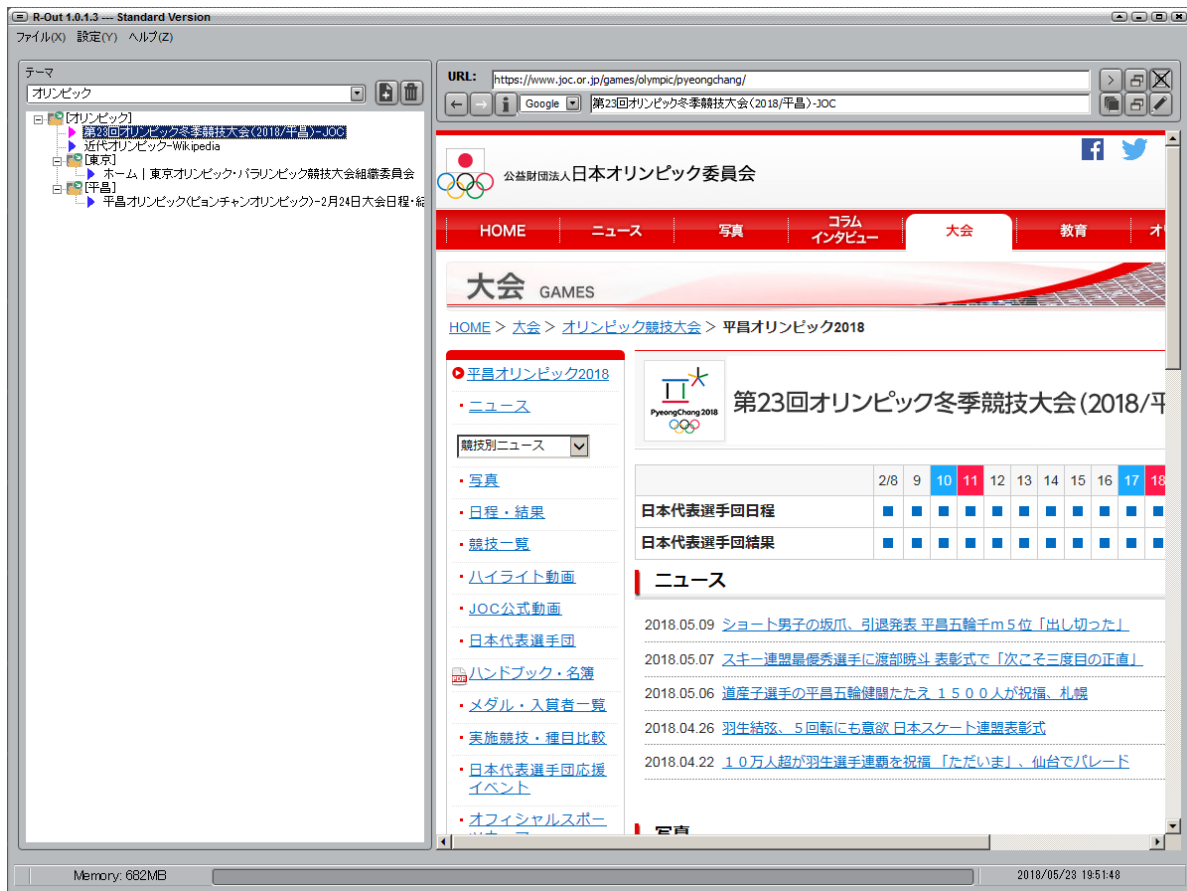


Figure 3.3.4.1 ツリー要素のドラッグ&ドロップ

- 1) 移動する要素をクリックして選択します。  
ブラウザが動いている場合は表示が確定するまで待ちます。

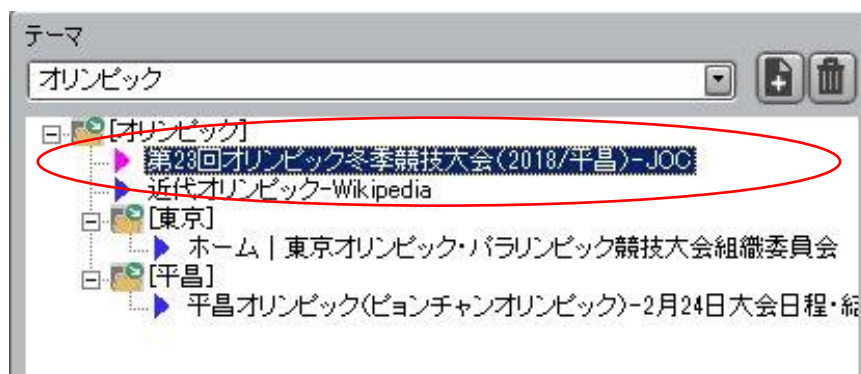


Figure 3.3.4.2 要素の選択

選択行が反転表示します。



- 2) ドラッグするとマウスポインタが四角い枠が付いた形に変化します。
- 3) ドロップ先までドラッグしてくるとドロップ先が反転表示します。

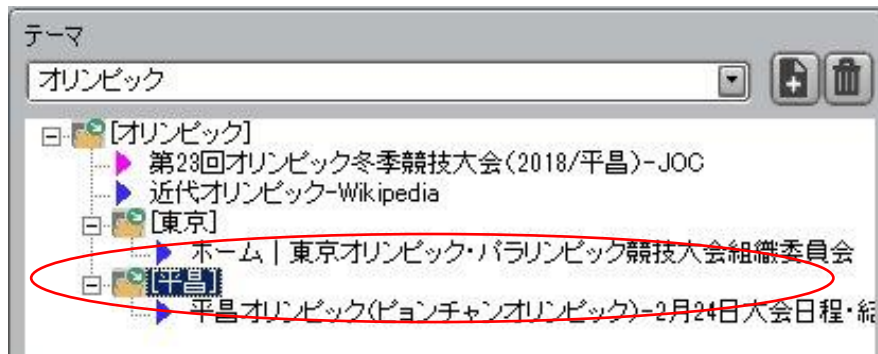


Figure 3.3.4.3 要素のドラッグ&amp;ドロップ

- 4) マウスを放してドロップします。



Figure 3.3.4.4 要素のドラッグ&amp;ドロップ結果

### 3.3.5 ドラッグ&ドロップ機能の原則

- 1) ノードをドラッグし、ノードにドロップする場合  
ドラッグしたノードは、ドロップ先のノードの次位に移動します。
- 2) ノードをドラッグし、セクションにドロップする場合  
ドラッグしたノードは、ドロップ先のセクションの下位の先頭に移動します。
- 3) セクションをドラッグし、セクションにドロップする場合  
以下のダイアログが表示されます。

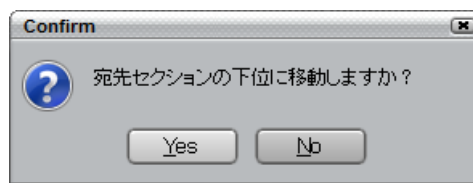


Figure 3.3.5 セクションのドラッグ&amp;ドロップ

[Yes]をクリックするとドロップ先セクションの下位の先頭に移動します。  
[No] をクリックするとドロップ先セクションの次位に移動します。



### 3.3.6 セクションの機能

セクションは、ノードのコンテナであるだけでなく、検索エンジンを使用したキーワード検索を行う機能があります。

- 1) セクション追加時  
セクションのキーワードを上位セクションのキーワードと共に検索エンジンで検索します。
- 2) クリック時  
セクションが選択されるのみでブラウザ画面は変化しません。  
ノードの追加は、選択されているセクションまたは選択されているノードの所属セクションに対して行われます。  
セクションをクリックすることで任意のセクションに対して表示中のページをノード登録することができます。
- 3) ダブルクリック時  
セクション追加時と同様に、検索エンジンで検索します。  
このとき、検索エンジンにツイッターが選択されている場合は自動的に「スクリプト許可」の状態になります。  
**スクリプト制御**については第4章 4.2.8 項を参照してください。



Figure 3.3.6 セクションのダブルクリック

## 第4章 ブラウザ・ナビゲーション

### 4.1 ブラウザ制御

本プログラムの内蔵ブラウザは、Microsoft の Shell Doc Object and Control Library (SHDOCVW.DLL) の Web ブラウザ機能を利用しています。

従って、**ブラウザ・ペイン**内の機能と動作は、Internet Explorer 11 と同様です。一部のサイトでは IE11 で正しく表示されない内容を含む場合があります。この場合の挙動も IE11 と同様になります。

ブラウザの設定は、Windows に付属の Internet Explorer での設定が使用されます。

### 4.2 ナビゲーション・ペイン

ブラウザ画面の上にある**ナビゲーション・ペイン**の各種コントロールを使用して、ネット・ナビゲーションを行います。



Figure 4.2 ナビゲーション・ペイン (ナビコントロール)

- |   |        |                                   |
|---|--------|-----------------------------------|
| ① | アドレスバー | 内蔵ブラウザが表示中のページのアドレス               |
| ② | タイトルバー | 内蔵ブラウザが表示中のページのタイトル               |
| ③ | ボタン類   |                                   |
| ← |        | ブラウザ・前画面へ戻る (黒字の時有効)              |
| → |        | ブラウザ・次画面へ進む (黒字の時有効)              |
| i |        | 検索エンジン起動 (プルダウンリストから検索エンジンを変更できる) |
| > |        | ナビゲート (アドレスバーに表示中の URL へ移動)       |
| 📁 |        | DB 登録 (現在のページをツリーにノード登録)          |
| 📄 |        | コピーアドレス (上の段) アドレスバーの内容をコピー       |
| 📄 |        | コピータイトル (下の段) タイトルバーの内容をコピー       |
| 🛑 |        | スクリプト制御 (スクリプト実行の許可と禁止)           |
| ✎ |        | エディタ起動                            |

#### 4.2.1 前画面へ戻る

可能な場合は**イネーブル表示** (ボタンの図形が黒色表示) され、押下するとブラウザが前画面を表示します。

#### 4.2.2 次画面へ進む

可能な場合はイネーブル表示され、押下するとブラウザが次画面を表示します。

#### 4.2.3 検索エンジン起動

ナビゲーションで使用する検索エンジンのページへ移動します。使用する検索エンジンはプルダウンメニューでグーグル、ヤフー、ツイッターから選択できます。初期設定ではグーグルを使用します。

#### 4.2.4 ナビゲート

アドレスバーに表示中の URL へ移動します。アドレスバーは編集可能です。

#### 4.2.5 DB 登録

ブラウザで表示中のページの内容（タイトルと URL）をデータベース登録し、ツリーにノードとして表示します。ツリー表示の原則は第3章 3.3.2 項を参照して下さい。

#### 4.2.6 コピーアドレス(URL)

ナビゲーション・ペインの上部には表示しているページの URL を表示する欄があります。コピーアドレスボタンを押下するとアドレス欄の内容をクリップボードにコピーします。

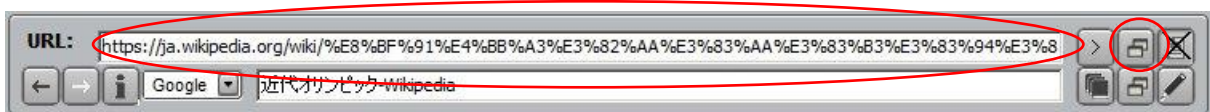


Figure 4.2.6 ナビゲーション・ペイン(アドレス)

このアドレス欄は書き込み可能です。

#### 4.2.7 コピータイトル

ナビゲーション・ペインの下部には表示しているページのタイトルを表示する欄があります。コピータイトルボタンを押下するとタイトル欄の内容をクリップボードにコピーします。このタイトル欄は書き込み可能です。

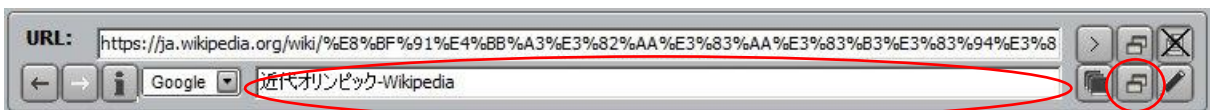


Figure 4.2.7 ナビゲーション・ペイン(タイトル)

#### 4.2.8 スクリプト制御

スクリプト実行を許可するかどうかを選択することができます。

一部のサイトでは本ソフトウェアの内蔵ブラウザ（Internet Explorer 11 相当）で実行できない、またはエラーが起きるスクリプトを含んでいることがあります。その場合、内蔵ブラウザに悪影響を与えて、スローダウンやクラッシュを引き起こすことがあります。

そういった事態を防ぐため、ブラウザは原則「スクリプト実行禁止」でページ表示します。しかしながら、Twitterのようにスクリプトが実行できないと機能が大幅に制限されるサイトがあるため、スクリプト制御ボタンでスクリプト実行の禁止と許可を設定することができます。Twitter での検索の場合は自動的にスクリプト実行許可状態になります。

ボタンを押し込んだ状態が「禁止状態」でそうでない状態が「許可状態」です。ボタンのアイコンが下図のように変化します。

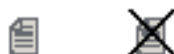


Figure 4.2.8 スクリプト許可 (左) と禁止 (右)

#### 4.2.9 エディタ起動

エディタ起動ボタンで**内蔵テキストエディタを起動**できます。エディタは別ウィンドウで開きます。(モードレス)

エディタの詳細は、第5章を参照してください。

#### 4.2.10 ローカルファイルのドラッグ&ドロップ

内蔵ブラウザの枠内に PC のローカルファイルをエクスプローラ画面から**ドラッグ&ドロップ**することができます。

このとき、以下の種類のファイルは内蔵ブラウザに表示され、アドレスバーにファイルのフルパスが表示されます。

このようにして内蔵ブラウザに表示されたファイルは[DB 登録]ボタンを押下するとツリーにノードとして登録することができます。

【内蔵ブラウザに表示されるファイル】

- ・テキストファイル (拡張子 TXT など)
- ・画像ファイル (拡張子 JPG、GIF など)
- ・アドビドキュメントファイル (拡張子 PDF)
- ・ブラウザ関係ファイル (拡張子 HTML、PHP など)

(注) アドビドキュメントファイル、ブラウザ関係ファイルは PC の環境によっては表示できない場合があります。

## 第5章 テキストエディタ

### 5.1 内蔵テキストエディタ概要

本プログラムの内蔵エディタは、Windows のメモ帳と同じくテキスト専用のエディタです。コピー&ペースト編集機能を強化した「カットバッファ」+「テキストエディタ」の2ペイン構成です。

カットバッファでは、ブラウザ表示中のページテキストを読み込んで、選択と編集を行います。テキストエディタでは、オリジナルのテキストを作成して、ファイルに保存できます。

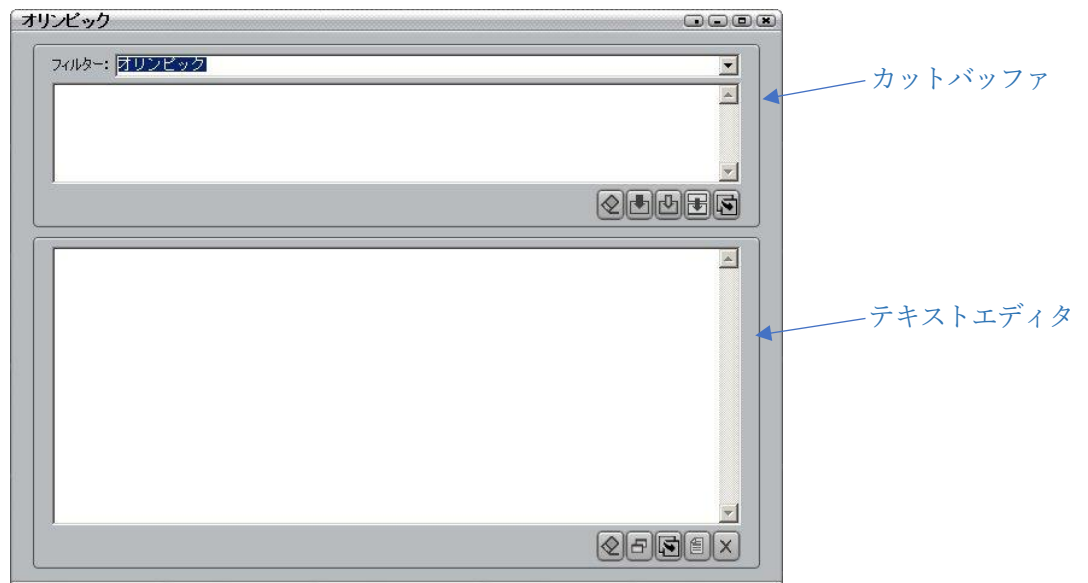


Figure 5.1 テキストエディタ画面

### 5.2 カットバッファ

カットバッファ・ペインには、フィルター・プルダウンリスト、テキスト編集パネル及び機能ボタンが配置されています。

#### 5.2.1 フィルター・プルダウンリスト

上部のフィルター・プルダウンリストはカットバッファに表示するテキストを絞り込むために使われます。

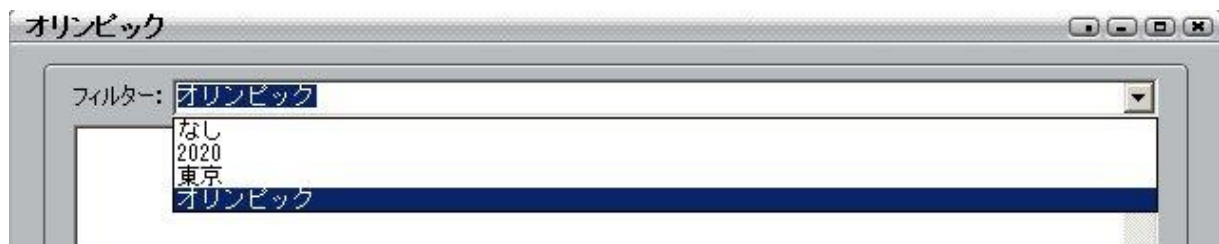


Figure 5.2.1 フィルター・プルダウンリスト

エディタが起動されたとき、表示中のノードの所属するセクションと上位のセクションが全てプルダウンリストに自動的に登録されます。

フィルターは編集することができます。表示中の文字列を変更すると新たな文字列がリストに追加されます

フィルターの内容は、[フィルタテキスト]ボタンで表示中の Web ページをカットバッファに読み込むときに使用されます。

## 5.2.2 カットバッファの機能ボタン

ペインの下部の機能ボタンで様々な機能が実現できます。



Figure 5.2.2 カットバッファ機能ボタン

### ①クリアボタン

カットバッファの内容を全クリアします。

### ②ソーステキストボタン

表示中の Web ページの内容 (html のテキスト部分) をテキスト編集パネルにコピーします。

### ③フィルタテキストボタン

フィルタープルダウンリストの文字列が含まれる Web ページの内容 (html のテキスト部分) をテキスト編集パネルにコピーします。

### ④選択コピーボタン

カットバッファのテキスト編集パネル内で選択されている文字列をシステムのクリップボードにコピーして、エディタの編集パネルに自動的に貼り付けます。

### ⑤ペーストボタン

クリップボードの内容をカットバッファに貼り付けます。

## 5.2.3 テキスト編集パネルの表示と選択

カットバッファのテキスト編集パネルには Web ページの内容がデリミタで区切られて表示されます。

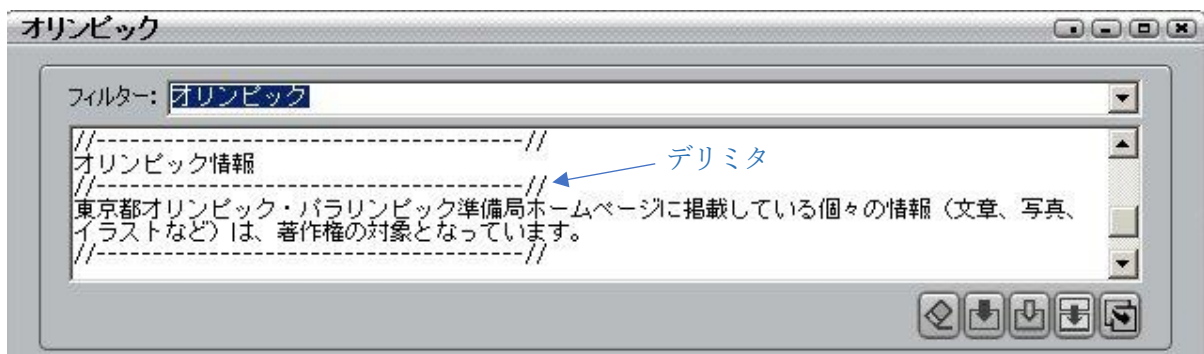


Figure 5.2.3.1 テキスト編集パネル

この例では、フィルタテキストボタンの機能を使って、フィルター内容 (“オリンピック”) を含んだテキストを抽出して、パラグラフ単位にデリミタで区切って表示しています。

このパラグラフは Web ページの内容 (html のタグ) に依存します。

テキスト編集パネル上のテキストをダブルクリックするとその場所を含んだパラグラフ (デリミタとデリミタで挟まれた部分) を自動的に選択状態にします。(反転表示)



Figure 5.2.3.2 テキスト編集パネル（反転表示中）

また、通常の Windows 機能キーを使って任意の部分を選択することもできます。

範囲を選択したら、[選択コピー]機能を使用して、エディタの編集パネルに貼りつけます。このときシステムのクリップボードを使用しますので、他のアプリケーションに Windows 機能キーを使って貼り付けることもできます。

### 5.3 テキストエディタ

テキストエディタは、テキスト編集パネルと機能ボタンから構成されます。テキスト編集パネルでは、Windows のメモ帳と同様にキーボードから文字を入力します。マウスの左クリックはカーソル移動、右クリックは Windows の UI 機能が割り当てられます。それ以外に下部に配置された機能ボタンで以下の機能が実行できます。



Figure 5.3.1 テキストエディタ機能ボタン

機能ボタンの機能は以下の通りです。

- ①クリア  
テキストエディタの全文字をクリアします。
- ②コピー  
選択部分をクリップボードにコピーします。
- ③ペースト  
クリップボードの内容をカーソル位置に挿入します。
- ④ファイルに保存  
エディタの内容をファイルとして保存します。  
保存時のエンコードは「シフト J I S」になります。



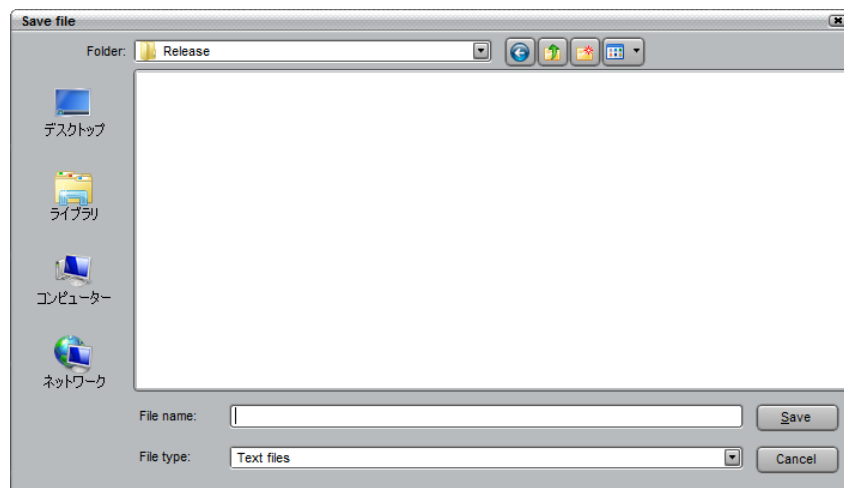


Figure 5.3.2 ファイルに保存画面

ファイル名を指定すると拡張子は自動的に txt が付加されます。  
ここで保存したファイルはテーマペインのツリーに自動的に登録されます。

同名のファイルがあると以下のメッセージが表示されます。

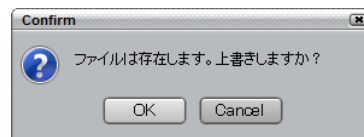


Figure 5.3.3 上書き確認画面

ツリーに登録されたテキストファイルは内蔵ブラウザに他のページと同様に表示されます。



Figure 5.3.4 テキストファイルのツリー登録とブラウザ表示

#### ⑤閉じる

エディタを非表示にします。プログラムを終了するまで内容は保持されますので、再度エディタを起動すると編集されていたテキストが表示されます。



「キュレーション・サポートツール」  
Reach-OUT  
ユーザーズ・マニュアル

---

2018 年 6 月 12 日 第 1 版発行  
シーベライズ株式会社

本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を越え、無断で複写、複製、転載することを禁じます。

©Copyright, CybelEyes Inc., 2018

---